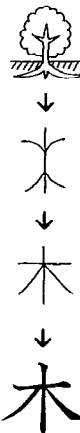


木

画数 4
筆順 一十才木
オン ボク・モク
クン き・こ

成り立ち



「木」のかたちをあらわした字で、「木」といういみをあらわした字です。

えだのぶぶんよりも、めにみえないねもとのほうがおおくあらわされているところに、ふかいいみがかんじられます。

「木でつくられたもの」も「木」といいます。

ボクは漢音で、モクは呉音（ふるい音）です。

「木」の訓は「キ」ですが、じゅくごになると「ココ」とかわるのがふつうです。例木の葉、木陰、木立。

使い方

▽うちのわにうえたうめの木が「大木」になって、なつにはよい「木陰」をつくりまします。
▽あさおきると、「庭木」のしたで「木刀」をふりまわします。

熟語例

- ▽大木（大きな木）
- ▽木陰（木の陰）
- ▽庭木（庭の木。庭にうえた木）
- ▽木刀（木の刀〔木でつくった刀〕。「木剣」ともいいます。）
- ▽木石（「木や石」ということですが、「人情のないもの」といういみ、また、「人情をりかいしない人」といういみにつかいます。）
- ▽木材（「木の材料」ということで、けんちくやこうさくにつかう木のことです。）
- ▽木片（木のきれはし）
- ▽木によって魚をもとむ（「木にのぼって魚をさがしもとめる」ということで、「けんとうちがいのどりよくをすること」のたとえにつかいます。）

本

画数 5
筆順 十才木本
オン ホン
クン もと

成り立ち



「木」のかたちをあらわした「木」という字の「ねもと」のぶぶんを「●」というしるしをつけて、「ここをあらわした字ですよ」としめた字です。「ねもと」といういみの字です。

「ねもと」は木をささえるたいせつなところですが、せいちようするのにたいせつなみずやひりようをきゆうしゆうするところです。それで、「ものごとのたいせつなところ」をあらわすのにつかうようになりました。

「ねもと」をあらわす字に「根」という字があつて、それで「根本」といいました。そのため「根」が「ね」、「本」が「もと」とよまれるようになりました。ひとにとつてたいせつなものは「書物」ですから、書物のことを「本」というようになりました。

使い方

▽「日本」というくになまえば、「日の出るくに」、「日の本のくに」ということばが「本」になつてつくられたものです。

▽漢字はすべてのがくしゆうの「基本」です。これがかたければ、どんながくしゆうもうまくいきます。

熟語例

- ▽基本（「基」は「土台」で、いえをたてる「基」になるものです。基も本も「もと」で、「ものごとの大もと」といういみです。「根本」ともおなじいみ）
- ▽見本（しなものなかがみがかい手にわかるように見せる「じつぶつ」のこと。）
- ▽本当（しんじつ。じつさいのこと。）
- ▽本質（「本当」の性質）
- ▽本心（「本当」の心）
- ▽本業（「本当」の職業）
- ▽本日（この日。きよう〔今日〕）
- ▽本人（その人。「当人」ともいいます。）
- ▽本能（どうぶつが本来もつている能力）